会員サイト公開用　役員活動報告書

名　前	板倉尚子
担当業務	【310】保健領域業務推進事業（学校保健および母子保健領域） 【313】動物に対する理学療法の推進に向けた関係団体連携事業

内　　容			
日　付	他団体	会議名	場所
07 月 01 日(水)		打合せ：子どもからだ育ち部会	WEB
07 月 02 日 (木)		出　席：学校保健部会	WEB
07 月 04 日 (土)		出　席：第３回理事会・役員勉強会	日本理学療法士協会会館
07 月 13 日 (月)		出　席：2026 年度代議員研修会	WEB
07 月 22 日(水)		出　席：第１回法改正検討特別委員会	WEB
07 月 24 日(金)		意見交換：子ども家庭庁成育局保育政策課	子ども家庭庁
07 月 30 日(木)		出　席：第１回子どもからだ育ち部会	WEB
08 月 01 日(土)		出　席：第４回理事会(臨時)	WEB
08 月 19 日(水)		打合せ：動物に対する理学療法検討部会　部会長	WEB
08 月 20 日(木)		出　席：第２回法改正検討特別委員会	WEB
08 月 30 日 (日)		参　加：第 23 回日本動物リハビリテーション学会	日本獣医生命科学大学
08 月 31 日(月)		打合せ：子どもからだ育ち部会長	WEB
09 月 05 日(土)		出　席：第３回理事懇談会	日本理学療法士協会会館
09 月 10 日 (金)		出　席：第３回法改正検討特別委員会	WEB
09 月 17 日(木)		出　席：第３回業務執行理事会	WEB
09 月 18 日(金)		打合せ：事例集編集・作成業者との打ち合わせ	WEB
09 月 24 日(木)		出　席：第４回法改正検討特別委員会	WEB
09 月 25 日(金)		打合せ：動物に対する理学療法検討部会　有識者	WEB
所感	・学校保健領域の情報発信の強化を目的に活動事例の共有、教育委員会等との連携支援のためのパンフレットの企画・編集を進めている。事例集へは 21 士会から協力を得て 28 事例を収集し編集作業を行っている。 ・部活動支援の課題整理について、都道府県士会学校保健担当者へのアンケートを基に、部活動支援の現状と事例を整理した。主要課題として、人材不足、学校・行政との連携、財源確保、活動の継続性、士会内の担当体制が挙げられた。対応として、人材育成、事例集等を活用した周知、相談窓口の設置、スポーツ・学校保健部門の		

	連携等を検討した。今後は、理学療法士の役割を明確化し、障害予防・教育を中心とした組織的かつ継続可能な支援のあり方を検討する。 ・子ども家庭庁成育局保育政策課に赴き、保育現場における理学療法士等専門職の活用について意見交換を実施した。令和 7 年度から開始された「療育支援加算の見直し」及び「専門職の保育士みなし特例」の政策趣旨について説明を受け、専門職には保育士の人員補完ではなく、専門性を生かした支援が期待されていることを確認した。特に、障害の有無にかかわらず、個別支援に加えて保育現場全体を俯瞰し、保育士・保護者等への助言や連携を通じて、インクルーシブな保育及び保育の質向上に寄与する役割が示された。本会に対しては、制度趣旨の全国的な周知と、理学療法士の専門性を保育現場で発揮できる人材の育成及び裾野の拡大が求められた。 ・子どもからだ育ち部会第 1 回部会を開催し、本部会の中期事業計画および 2026 年度実態調査報告の骨子とその位置づけについて整理した。2026 年度は「保育現場の実践事例整理」「保育施設長・保育士・保護者へのヒアリング」「自治体連携事例の収集」などの実態調査から体系化し、保育現場の課題の整理と理学療法士が保育現場で果たす役割と専門性を明確化するための基礎データとして報告書を作成する。 ・日本動物リハビリテーション学会に参加した。本大会は、獣医師、愛玩動物看護師、理学療法士等の多職種が参加し、特別講演、教育講演、症例発表等が行われた。動物リハビリテーションにおいても、理学療法における評価・臨床推論の考え方や、多職種連携、客観的な評価結果の蓄積が重要であることを認識した。一方で、獣医療領域において「理学療法」と「リハビリテーション」が同義に捉えられている場面も見受けられ、動物リハビリテーションにおける「理学療法」の位置づけや、「理学療法士」の専門性について、今後さらに整理し、多職種間で共通理解を形成していく必要性を感じた。 ・動物のリハビリテーション分野における世界的なパイオニアであり、「犬のリハビリテーション認定プログラム（CCRP)」の共同ディレクターを務めている米国テネシー大学の David Levine 教授（理学療法士）にビデオメッセージを提供頂いた。職種間の協働、教育の重要性、そして日本ではこの分野がまだ発展途上にある今だからこそ、そのあり方を適切に形づくっていく機会があるというメッセージが添えられていた。今回の Lecture を本会会員へ公開する研修会を企画中である。
報告日	2026 年 10 月 04 日

※「他団体」に〇がついている項目は、本会役員として他団体に関与しているものです。